（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和５年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	生坂『創造の森』プロジェクト
事業主体 （連絡先）	生坂村 （担当：村づくり推進室　0263-69-3111（直通））
事業区分	産業振興、雇用拡大（イ 農業の振興と農山村づくり）
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,465,800 円（うち支援金：4,823,000 円）

事 業 内 容

ゼロカーボンアクションや脱炭素型ライフスタイルの実践する脱炭素モデル地区を目指す「いくさか『創造の森』プロジェクト」。

今年度は、令和４年度に制作したアースオーブン周辺に村産のスギ材や村内の土など、地元の素材をふんだんに活用して屋根・シンク・炊事場を増設し、屋外キッチンとしての機能を充実させた。

また、地元産の食材を使用して『森のレストラン』全２回と『てづくりピザパーティ』全３回を開催し、村内外から延べ 100 名以上が参加。交流人口の増加や地域コミュニティの形成を促進するとともに、『創造の森』プロジェクトについて説明し、理解促進を図った。

【森のレストラン】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

●いくさか『創造の森』プロジェクトの概要や脱炭素に対する村の取り組みを、地域に周知することができた。また、株式会社松本山雅の協力により、新聞や SNS など、メディアへの露出機会が増加し、村外にも生坂村の脱炭素の取組を PR することができた。

●屋外キッチンの整備やコミュニティースペースの拡充を行ったことで、昨年より多くの参加者を受け入れることが可能になった。全５回のイベント開催で、村内外から延べ 100 名以上に参加いただいた。

【目標・ねらい】

①新たな地域コミュニティの形成
②ゼロカーボンに対する意識の村全体への波及
③『創造の森』における脱炭素型ライフスタイルの理解促進

※自己評価【Ｂ】

【理由】
・イベントを通じて、雲根地区を中心に地元住民と移住者の新たな地域コミュニティが形成された。
・イベント参加者を通じてゼロカーボンへの意識を村内外に波及することができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

●次年度以降、イベント参加者数は、延べ 100 人以上（村内 60 名、村外 40 名）を目指す。

●今年度までの取り組みによって醸成されつつあるゼロカーボンに対する意識のさらなる波及を目指して、村民に対して脱炭素型ライフスタイルへの理解促進と普及啓発を継続して行う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）